



2011. 1. 16
No.37



結
y u i

発行「憲法9条の会つくば」

〒305-0005

つくば市天久保 1-10-12 1-401

電話 090-3811-3753

Fax 029-857-6978



<http://peace.arrow.jp/tsukuba/>

2011年 あけまして おめでとうございます

新しい年を迎え、益々ご健勝のことと存じます。当会では今年、これまでの「憲法9条を変えないことを求める」署名、賛同人を広げる活動、6周年のイベントなどに加え、賛同人の方々との交流と9条の輪を広げるためのイベントを様々企画しております。その一部をご紹介します。皆さま、お誘いあわせて、ぜひご参加ください。

2011年9条の会つくばは 多彩な活動を企画中!



馬頭町、いわむらかずお絵本の丘美術館全景

ピース9ツアー2011 春の風にさそわれて
～「いわむらかずお絵本の丘美術館」へ行きましょう
小さいお子さんをお持ちのお母さんお父さん、保育・幼児教育関係のみなさん、いわむらかずおさんの14ひきシリーズをご存知でしょうか。かわいいかやねすみの一家が野山で活躍するお話です。作者のいわむらかずおさんは「笠間9条の会」の呼びかけ人のお一人です。その、いわむらさんの絵本の原画を展示する美術館が栃木県馬頭町にあります。雑木林にかこまれた静かな場所ですが公共交通の便が悪いので、今回は貸切りミニバスをチャーターして行く予定です。美術館では、いわむらさんご本人の読みきかせと平和についてのお話が予定されています。実施の日時は**4月23日(土) 9時頃出発**予定です。詳細は3月の「結」でお知らせしますが、定員は30人ほどですので、先着順になります。お知らせをお見逃しなきようお願いいたします。

また、今回の企画を第1回として、年1～2回、「ピース9ツアー*平和とアートの旅」を企画するつもりです。乞うご期待！（穂積）

歌を通してつながる「うたごえ喫茶」

9条の会つくばでは今年、歌声喫茶「平和と歌のつどい」（仮題）を企画中です。かねてから要望があった歌声喫茶ですが、今回は9条の会バージョンということで「平和」をテーマにできればと考えています。

日時は**6月12日(日) または26日(日) 午後**

に、つくば市内または近隣地域にて実施を予定。

平和の歌や懐かしい歌など、みんなで歌って楽しみながら、交流するつどいにしたいと思います。堀部代表を中心に、うたごえ協議会の協力も得て、楽しい企画を準備中です。皆様どうぞお楽しみに♪（佐藤）



戦争を語り継ぐ「朗読9の会」を8月に

今年は、戦争を語り継ぐ企画として、**8月27日(土) または28日(日)**に「朗読9の会」の開催を計画しています。昨年の5周年のつどいで野坂昭如作「凧になったお母さん」を朗読頂いた大西陽子さんが活動されているNPO 十里舎でんでん（河内町十里）にご参加頂く予定です。

NPO 十里舎でんでんでは1996年から毎夏、平和のつどいとして朗読会を企画し、「女たちの太平洋戦争」「この子たちの夏」野坂昭如作「戦争童話集」の他、沖縄・ひめゆり部隊から米軍基地の問題等々、常に平和を問う姿勢で語りを続けてこられました。昨年の夏は井上ひさし作「少年口伝隊一九四五」が語られ、今年の8月、再演を含め新たな企画を実施したい、とのことで、「朗読9の会」との共催で、つくばでの公演が企画されています。次世代に戦争を語り継ぐための催し、ご期待ください。（長田）

*それぞれの企画でお手伝い頂けるスタッフを募集しています。「憲法9条の会つくば」の連絡先までお問合せください。よろしくお願い致します。



9条の視点から

日本国憲法の公布から 65年目のお正月を迎えて

これらは、60 余年前の空気に染まった古くさい考えでしょうか。いえ、それどころか、現代の日本人が改めてしっかりと認識すべき事柄として、燦然と輝いています。日本政府が堂々とこれを周辺国に突きつけることができるなら、多くの国民は政府を支持するでしょう。

ところが昨年の尖閣諸島問題に際しても、政府が発信するのは「領土問題は存在しない」という訳のわからないつばやきです。だから国民の間にも「断固たる姿勢」を求める声が強まり、それを単純に「武力による威嚇」に結びつけようとする議論もあるようです。相手をへこませる弁舌の力を持たない者がすぐに拳骨をちらつかせる。その種の人々はどこの国にもいるもので、時には相手国の国民や関連企業に危害を加える暴徒が出たり、またそれを英雄視する現象が見られますし、すると当国側にも同レベルの対抗意識を持ちたり実行したりする人々が現れるのも避けられないことかも知れません。しかし国の政府が言語不明瞭の一方で拳骨を固めて見せるようなことは、みっともない、では済みません。

昨年末、民主党政府は「新防衛大綱」、「中期防」を決定したとのことで、ちょっと調べてみますと、「動的防衛力」というふれ込みで、何か事あれば部隊が機動的にどこまでも出かけて行ける体制を強めるというのが主要内容らしい。南西諸島への配備強化も書かれています。尖閣沖に他国艦隊が迫れば、直ちに自衛艦隊が割って入るといふのか？ 世界は、どこそこの国の軍備拡張に対抗して、それに勝る拡張を、という時代ではなくなっていることを、政府はダメでも国民がしっかりと知ることができるよう、今年も運動していきましょう。

吉門 洋 (憲法9条の会つくば・代表)

会ではつくば市有権者 15 万人の過半数獲得を目標に「憲法9条を変えさせない」署名に取り組んでいます。12 月は定例署名を 12 月5日(日)、9の日署名を8日(水)開戦の日に、新日本婦人の会、母親連絡会の方々と赤紙配りと合同で行ないました。2011 年1月10日には恒例の成人の日署名もあり、117 筆が集まりました。

11月21日学習会報告

—「60 年安保と岸信介 秘められた改憲構想」を見る—
1960 年の日米安全保障条約改正を強行した岸首相の意図、反対闘争を抑えるための自衛隊治安出動をめぐる動きなどを追った NHK 特集「その時日本は…」(1995 年製作)のビデオ。その中で、岸政権は安保条約を「日米対等の防衛条約」とすることを意図、そのために天皇を国家元首とし、独立国として最低限の軍隊を持つという改憲構想を持っていたことが明らかにされている。安保反対闘争が激しさを加えた60年5月、岸首相は自衛隊の治安出動に向けて訓練を開始させ、火器の使用や戦車の出動も企画していたという。

こうした改憲構想はその後安倍政権に受け継がれ、さらに民主党政権にも繋がっていることが懸念される。そのため、2010年8月に発表された「新たな時代における日本の安全保障と防衛力の将来構想 “平和創造国家” を目指して」と題する菅首相私的懇談会報告書についても学習した。なお同報告書は12月に発表された民主党「防衛計画の大綱」の骨子となっている。(長田)

国策の犠牲になったある家族の体験

太平洋戦争が始まった日の12月8日、つくばでは毎年、学研労協等の主催で「12.8 不戦のつどい」を開いています。今回は、結城市の中国語ボランティア講

今一度、第9条を読んでみましょう。「正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し」…「武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。」

「憲法9条の会つくば」の活動から

◆賛同人 2011 年1月11日現在
総数 813 名 (市内 610 名)

◆9条署名 1月12日現在 9782 筆

師・種子島秀子(73)さんに「満蒙開拓団・中国残留邦人そして帰国」と題する生々しい体験をお話いただき、戦争の残酷さと平和の大切さを学びました。
体験の概要:1944 年春、次女の秀子(7)一家は、父母、4 姉妹、従兄弟の7人で京都開拓団として満州に入植。敗戦の情報が入らないまま、9月に日本人グループは村人に3 回襲われ、開拓団本部から日本に帰れと命令が出された。逃避行の中で父が殺され、秀子は頭を打たれ置き去りになるところを母の抵抗で生き延びた。5歳の妹は母の背中で息を引き取った。命を助けるために、2歳の末妹を中国人に渡し、母は姉と秀子連れ中国人と再婚。3年余の中国内戦を経て1949年に新中国が成立した。仕事に就いた姉は肺を患い、苦しみながら死んだ。

種子島さんは師範学校を出て 30 年余り先生をし、結婚して子どもを育て、母と養父を亡くされましたが、46年後の1990年に家族連れ帰国しました。「まともな食料も薬もない難民生活で、弱い老人や子どもは次々と死んでいった。小さな子を助ける唯一の道は、子どもをもらいにきた中国人に預けることだった」と話し「中国侵略の道具として国民を満州に送りながら戦後の混乱で孤立した私らを保護しなかった」と日本政府を告発する静かな口調が印象的でした。また「私は何千人もの残留孤児を養育してくれた中(ノ)

勤労働員と東京で2回の大空襲

私達は、学校勤労働員ということで、女学校 2 年生の 10 月に学業が打ち切られて、東京中央气象台に配属され、モールス信号の速成訓練を受けました。それからは気象通報を聞き取る仕事だけの毎日になり、教科書を開いて勉強するという事は全くありませんでした。

3 月 10 日に東京大空襲があり、焼夷弾の直撃を受けて友人が即死しました。昨日まで語り合い、笑い合っていた友の死の悲しさに言葉もなく、信じられないことでした。5 月 25 日、第二の東京大空襲があり、私の家の前は見渡す限り焼失しました。続々と来襲する米軍の B29 爆撃機が落とす焼夷弾から更に線香花火のようにパラパラと広がり落ちる火の玉を夜空にはっきりと私は見ました。あの火の玉が当たれば私は死ぬのだと思い、胸が苦しくなったことを忘れません。風の向きによって私の家は焼失をまぬかれました。途中ではくれた父母と再会できましたが、この夜の東京大空襲で沢山の方がなくなりました。

疎開、終戦

仕事のため父母は東京に残り、姉と私は長野県軽井沢に疎開する事になりました。行きたくないと何度言っても、とにかく生きるのですよと言われ覚悟

を決めて東京を離れました。軽井沢はのんびりとしていましたが、食べることは辛い思い出ばかりです。配給された大豆混じりの米をより分けて米はお粥にし、豆は炒ってポリポリ食べるのですが、すぐなくなるので野草のアカザやシロザ等いろいろ食べました。農家から分けてもらう少しの南瓜で空腹を何とか満たしていた頃を思うと、今の飽食や捨てられる食品の多さに涙が出ます。

軽井沢では日本降伏の噂が広まり、外交官の子ども達が日本は負けたのだよと言うので、半信半疑でした。8 月 15 日に日本は無条件降伏し、ドイツ人の子ども達の言った通りで、彼らが既に知っていたことが不思議でした。東京に帰れたのは 11 月で、親子ともげっそりとやせてはいましたが、生存していることの喜びの再会でした。

新しい憲法

日本国憲法が公布されて、喜びました。戦争はもう絶対に繰り返してほしくないと心の底から思いました。今何故 9 条を変えようとする人がいるのでしょうか。人間同士殺しあってよい事など一つもありません。若い方々にはこのことをしっかりと知って頂きたいです。主権者として意見をはっきりと言いましょ。日本国憲法 9 条の意味をよく理解し、みんなですべてをしっかりと守ろうではありませんか。

国に感謝している。今日は日中関係が良くなってほしい一心で話をした」と語り「戦争は上の人には逃げ道があるが、下の者には災厄をもたらすだけ。戦争は絶対に反対だ」と重い言葉で結びました。(山本)

各戸配布チラシに反響！ありがとうございます

既報の通り、昨年 11 月末～12 月 1 日にかけて学園地区を中心に市内約 38000 所帯に広報チラシをポスティングしました。その後、続々と署名が送られてきています(12 月末現在 10 名の方から 45 筆)。ピラを増刷して職場の人たちから 12 筆集めて下さった方もあります。チラシ内容も好評です。在庫もありますので、是非ご利用下さい。

行動予定

- 2月6日(日) 定例署名行動 11:30 集合
アルス前 12:00～13:00
- 2月9日(水) 9の日行動 11:00～12:00
西武2階外広場
- 2月18日(金) 事務局会 19:00～21:00
手代木公民館2階中会議室
- 3月20日(日) 定例会 10:00～12:30
手代木公民館和室(予定)



<「憲法 9 条の会つくば」会計報告> 2009.12.1～2010.11.30

収入

前期より繰り越し	口座	448,180
	現金	110,820
小計		559,000
今期収入		
賛同人カンパ(口座)		291,000
賛同人カンパ(現金)		93,360
つどい		312,784
その他		900
小計		698,044
収入合計		1,257,044

支出

「結」関係	160,928
賛同人拡大・署名	51,510
広報チラシ作製費	108,100
つどい	350,569
その他	35,405
支出合計	706,512

差引残高	550,532
口座	439,180
現金	111,352

井上ひさしの言葉を継ぐために

岩波ブックレットNo.798
著者：井上ひさし、大江健三郎、澤地久枝 他



この本は、昨年6月19日に行なわれた「井上ひさしさんの志を受けついで 九条の会講演会 日米安保の50年と憲法9条」での講演記録に、井上ひさし氏の書籍未収録講演「原爆とは何か」を加えた本です。60ページと短い物ですが、「日米安保の50年」と副題があり、沖縄問題、中国やアメリカ等、現実社会のパワーバランスに対しての憲法9条の効力を力強く訴え、井上ひさし氏の言葉を継ぐとは何かということと同時に投げかけたものとなっています。

その中で大江氏は「私たちはいま平和国家をつくり上げているとは言えません。それは私たちの心の中のせめぎあいとしてある。しかしそのせめぎあいを自覚しながら、そのことを常に自分たちの課題とし、互いに討論しながら本当の平和主義を実現していく努力を続けたい」と言いました。心の中でのせめぎあいとはどういうことなのか？

大江氏は鶴見氏の考えを紹介します。「自分は、平和を守る側に立って生きたい。この願いは、自分にそれができるかという疑問とせめぎあって、終わりがなくつづく」。澤地氏は井上氏の最後の作品、小林多喜二を描いた『組曲虐殺』中での「あとに続く者を信じて走れ」という言葉を導きだします。平和の構築は、心のせめぎあいを自覚しながら、綿々と続く行為から生まれてくるのでしょ。

井上氏の「原爆とは何か」という講演の中で、戦争・被爆の悲惨さ、権力の愚劣さを克明に語りながら、日本国憲法はそのような戦争の悲惨を繰り返さ

ないという願いが形となったもの、世界史からの贈り物であって最高佳作であると信じています、と言っています。この小さなブックレットは、あとに続く者に、継続する平和意思を現在どのように保ち、効力として如何に考えるかという課題に対して、実践で答えをだしている、貴重な記録となっています。(野口修)

テレジンからの命のメッセージ

—「テレジンを語る会いばらき」
発足のつどい



第二次世界大戦下、ナチスがチェコのテレジンに作った強制収容所がありました。15000人の子どもたちが収容され、戦後子どもたちが描いた4000枚の絵が発見されました。過酷な状況の中、子どもたちの命の輝きを支え、寄り添い、そして共に消えていった大人たちがいました。「生きたい」と願った子どもたちのことを心に刻み、命のメッセージを伝えなければ、の思いから、今年10月「テレジン収容所の小さな画家たち展」がつくば美術館で行なわれます。

それに先立ち12月19日、つくばインフォメーションセンターで野村路子さん(『テレジンの小さな画家たち』『15000人のアンネ・フランク』著者)の講演会が催されました。プラハのシナゴークで初めてテレジンの子どもたちの絵に出会った時のこと、日本で展覧会を開くまでの様々な困難などお話をされました。

アンケートには「平和のために何が出来るのか」という自分自身に問いかける感想や意見が多く寄せられました。日常生活の中で、ふとテレジンの子どもたちのことを思い出せるような人がもっと増えたら、世の中良い方向に向かうと思います。

「テレジンを語る会いばらき」が発足しました。一人でも多くの方のご参加をお待ちしております。

(関谷和子)

インフォメーション

◇テレジンを語る会いばらき—「15000人のアンネ・フランク」(野村路子著/径書房)読書会

日時：1月19日(水)19:00～

2月16日(水)19:00～

場所：市民活動センター

*10月に行なわれる「テレジン収容所の小さな画家たち展」のための学習会です。

連絡先：TEL/Fax029-823-3484(関谷)

029-856-2286(長田)

◇憲法9条牛久の会一月1回読書会

日時：1月20日(木)14:00～

内容：『日本近現代史を読む』(宮地正人さん監修)

「明治維新」「自由民権運動」について

場所：コープ牛久2F

連絡先：TEL/Fax029-872-2707(石毛)

◇憲法9条の会土浦—うたごえ広場

日時：2月6日(日)13:30～

場所：ワークヒル土浦

内容：橋本実さんと歌ううたごえ広場

連絡先：TEL029-831-6288(福田)

◇茨城反貧困メーデー企画

—雨宮処凛トークイベント～生きづらさ2011冬

日時：2月27日(日)13:00～17:00

場所：県南生涯学習センターウララ中講座室1(定員

100名)参加費：500円

主催：茨城反貧困メーデー実行委員会

連絡先：TEL090-441-1457(加藤)

◇荊崎9条の会5周年記念集会

3月27日(日)*詳細は次号に掲載予定

連絡先：TEL029-876-1545(野口)